

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-3D_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フクシツクス棟第2工場	階数	地上2F
建設地	埼玉県児玉郡美里町	構造	S造
用途地域	都市計画区域内 非緑引き区域	平均居住人員	100 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(法定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	評価の実施日
竣工年	2020年12月	予定	2020年2月3日
敷地面積	47,738 m ²	作成者	JUN建築設計㈱
建築面積	15,752 m ²	確認日	確認者
延床面積	24,993 m ²		



2-1 建築物の環境効率 (BEEラフ&チャート) | 2-2 ラフサイクルCO₂温暖化影響チャート | 2-3 大項目の評価 (ウーダーチャート)

BEE = 1.1

S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ B-:★★★★★ C:★★★★★

環境負荷 L

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 79%

③上記①②以外の 79%

④上記 79%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建築物(参照値)と比べたラフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです。

02 サービ

性能

Q1 室内環境 (敷地内) 4

Q2 サービ性能 5

Q3 室外環境 (敷地内) 4

LR1 エネルギー 1

LR2 資源・マテリアル 2

LR3 敷地外環境 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

1	1.8
2	2.6
3	2.9
4	2.8
5	

音環境 熱環境 光・視環境 空気環境

Q2 サービ性能

Q2のスコア = 3.3

1	3.4
2	3.0
3	3.6
4	
5	

操作性 耐用性 対応性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

1	3.0
2	3.0
3	3.0
4	2.0
5	

生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

1	1.0
2	3.0
3	3.0
4	5.0
5	

建築物底の 自然エネ 設備エネ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

1	3.0
2	3.0
3	3.0
4	
5	

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

1	3.8
2	3.0
3	3.0
4	3.0
5	

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項

総合
操作性・使いやすさを意識し、ゆとりのある空間とする。高効率の設備機器を使用することにより、エネルギー消費を低減。

01 室内環境	02 サービ性能	03 室外環境 (敷地内)
建物全体を禁煙とする。	1人あたりの執務スペースを十分に確保し、快適な空間となるよう計画。	自生種の保全に配慮した緑地づくりをする。
LR1 エネルギー 高効率の設備機器を使用する。	LR2 資源・マテリアル 仕上げ材の一部にリサイクル材を使用する。	LR3 敷地外環境 ラフサイクルCO ₂ 排出率に配慮する。

■CASBEE Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ラフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で割った年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のラフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE 建築(新築)2016年版
ツリツクス病院2E棟

■使用評価マトリクル CASBEE 建築(新築)2016年版
■評価ソフト: 欄に数値またはコメントを記入

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階

配属項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境						2.6
1 音環境		1.8	0.30	-	-	1.8
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		2.2	0.40	-	-	
1	開口部遮音性能	3.0	0.60	3.0	-	
2	界壁遮音性能	1.0	0.40	3.0	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	3.0	-	3.0	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-	
1	室温	3.0	0.38	3.0	-	
2	外皮性能	3.0	0.25	3.0	-	
3	ゾーン別制御性	1.0	0.38	-	-	
2.2 温度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用		2.4	0.30	-	-	
1	昼光率	2.0	0.60	3.0	-	
2	方位別開口	3.0	-	3.0	-	
3	昼光利用設備	3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレイド対策		3.0	0.30	-	-	
1	昼光制御	3.0	0.30	3.0	-	
3.3 照度		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		2.8	0.25	3.0	-	
4 空気環境		2.8	0.25	-	-	2.8
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1	化学汚染物質	3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1	換気量	3.0	0.33	3.0	-	
2	自然換気性能	3.0	0.33	3.0	-	
3	取り入れ外気への配慮	1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1	CO ₂ の監視	1.0	0.50	-	-	
2	喫煙の制御	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービース性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-	
1	広さ・収納性	5.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応	3.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観	3.0	0.33	3.0	-	
2	リゾリブンススペース	5.0	0.33	-	-	
3	内装計画	3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建築物のこわれにくさ)	3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-	

各部屋ごとに空調・換気設備を設けている

食堂(リゾリブンススペース)291.31㎡、自動販売機設置

2F事務室・サーバールーム(執務スペース)226.31㎡/15人=15.08㎡/人










3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高=7.250m	3.6	0.30	-	-	3.6
		2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.03	5.0	0.60	3.0	-	-
	3.2 荷重のゆとり	1	3.0	0.40	3.0	-	-	-
		2	3.0	0.30	3.0	-	-	-
		3	3.0	0.30	3.0	-	-	-
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	3.0	0.20	3.0	-	-	-
		2 給排水管の更新性	3.0	0.20	3.0	-	-	-
		3 電気配線の更新性	3.0	0.10	3.0	-	-	-
		4 通信配線の更新性	3.0	0.10	3.0	-	-	-
		5 設備機器の更新性	3.0	0.20	3.0	-	-	-
6 ネットワークシステムの確保		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出	-	0.40	-	-	-	2.7	
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	0.30	3.0	-	-	3.0		
3 地域性・アミニティへの配慮	2.0	0.40	-	-	-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
	2	2.0	0.30	-	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	1	2.0	0.50	-	-	-	-	
	2	2.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性	LR1 エネルギー	-	0.40	-	-	-	3.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.20	-	-	-	-	3.6	
2 自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	-	1.0	
3 設備システムの効率化	[BEI][BEml] = 0.57	5.0	0.50	-	-	-	3.0	
4 効率的運用	3.0	0.20	-	-	-	-	5.0	
集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング	3.0	1.00	-	-	-	3.0	
	4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	3.0	
	集合住宅の評価	-	0.50	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	-	3.0	
4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・リサイクル	1 水資源保護	-	0.30	-	-	-	3.0	
1.1 節水	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.60	-	-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	3.0	0.30	-	-	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減	3.0	0.60	-	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.11	-	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22	-	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22	-	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.22	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0	0.22	-	-	-	-	-	
3 汚染物質を含む材料の使用回避	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	3.0	0.70	-	-	-	-	-	
1 消火剤	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
3 冷媒	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮	-	0.30	-	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮	CO2排出率=7.9%	3.8	0.33	-	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮	3.0	0.33	-	-	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
4 産業物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮	3.0	0.33	-	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1 騒音	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
2 振動	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
3 悪臭	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要			
建物名称	フクレックス隣第2工場	BEE	1.3
		BEEランク	★★★

2 重点項目の評価			
ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	2.6	= 6.4
重点項目の各スコアの合計点			
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上
	 	  	  

3 重点項目についての環境配慮概要			
(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均 3.8	
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
L R3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮		スコア 3.8
運用時のライフサイクルCO2を抑える取り組みをする。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均 2.6	
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出		スコア 3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上		スコア 2.0
L R3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善		スコア 3.0
自生種を選定し、環境に適した緑地づくりを計画している。			

: 入力欄